

太田東西かわら版

おんころころせんだりまとうぎそわか

2021.5

「生理」に対する “受け止め方”



4月28日、長崎市万屋町で〈株式会社りぼん〉を経営されている大原万里亞（まりあ）さんを訪れました。

大原さんは養護教諭としてお勤めされていましたが、8年前から女性の「生理に対する意識」を向上させるべく開業されました。

りぼんさんの主力商品は、**〈布なぶきん〉**。
婦人科疾患・子宝相談を得意とする太田東西と相性バッチリでした！

「布なぷきんって、フランス料理の時に使うやつ？」
といた、月経（以後、生理と記します）に対する知識と経験のない
世の男性諸氏のために解説すると・・・(^-^);

初潮から閉経前の女性（およそ50歳）は、毎月1回、生理を迎えます。
出血が4～7日続いて、1回の生理で30～120ccの出血量があります。

「生理って、なぜ出血するのか？」
今まで深く考えたことがある人、特に男性は極めて少ないでしょうね。
私もこの仕事をしていなかったら、女性の生理に関心を寄せるなんてなかった
と思います。しかし生理は女性の健康に極めて関係する現象なのです。

生理は妊娠するための“子宮のダイナミックな変化“であり、月1回の出血は
「排卵した後、今回は妊娠していませんでした」という体からの“お知らせ”。
出血（月経血）は子宮内膜が肥厚した部分が、膣から排出されるものです。

その出血に対して、様々な生理用品が発売されています。
女性の様々な病気の相談をこれまで受けて来て、ある時気づきました。

頭痛、腰痛、めまい、肩こり、冷え症、不眠、うつ、リウマチ、高血圧、便秘
吐き気、咳、かすれ声、肌荒れ、ニキビ、膀胱炎、頻尿、乳がん、大腸がん
橋本病（慢性甲状腺炎）、クモ膜下出血など。

これらはすべて、＜生理＞と関係があり、生理不順・生理痛・月経前緊張症
（PMS）といった共通の症状がある。男性よりも女性に多いリウマチをはじめ
とする膠原病・甲状腺疾患・クモ膜下出血など、完治が望めない病気の原因に
＜子宮卵巣の不調＞がある。

私の東洋医学は、患者さんの全体像を診ます。例えば、めまい・耳鳴りなら
耳鼻科を受診しますが、そこで異常がない・治らないというご相談の場合。
私は耳ではなく、子宮卵巣の状態を重視しています。

特にうつ病は顕著です。ホルモンバランスの乱れから、生理不順（時に無月経）
となり、意欲と気分がドンドン低下する。精神科の医者はうつ病と診断したら
男性にも女性にも、同じ薬を処方します。＜性差医療＞の概念はありません。

太田東西薬局では、同じ病名でも男性と女性に処方する漢方は異なります。
男性よりも女性が自然観に対する理解があるから、漢方が早く効きます。

それくらい女性にとって大切で重要な生理なのに、どうして多くの女性はその生理に意識が深く向かないのでしょうか？ それは、

《生理に対する“受け止め方”》が間違っているからです。

自分が生理ということ、周りに知られないように、見つからないようにこっそりと出血の処置をする。周りに迷惑をかけないように、仕事に支障が出ないように、生理痛は鎮痛剤（痛み止め）で抑える。

「なぜ生理痛があるのか？」原因を深く考えることもなく、場合によっては生理前から薬を服用する。ナプキンの付け替えの手間・回数を減らすために長時間用のナプキンを使う。

それは母親や友人はじめ、女性全員がやっている常識。迷うことはない。

そうした習慣から、生理に対する受け止め方が以下ようになります。

＜生理＝秘密＞ ＜生理＝恥＞ ＜生理＝面倒＞ ＜生理＝残念＞

特に仕事やスポーツに熱心に打ち込んでいる女性、生理痛がひどい女性は「生理にならなかつたら、もっと〇〇できたのに」「生理が無くなれば、生理痛で悩むこともないのに」と思ったり・・・

満足できない歯がゆさ、痛みに対する恐れなど、その思いは理解できますが女性の価値観の中で、生理の優先順位が下位にあるなら・・・

＜女性性の否定＞、ひいては＜自分の否定＞につながります。

女性の思考・感情（脳）と生理（子宮卵巢）はつながっている。

薬局の女性お客様に力説していることです。

子宮内膜症、子宮筋腫、子宮腺筋症
過多月経による貧血など
生理をストップさせて痛みや出血を無くす薬
または子宮全摘手術という発想ではなく・・・

自分の今の《生理に対する受け止め方》に何か問題があるのかも？と気づいてほしい。

生理は不浄なものではなく、神聖なもの。
生理は困らせるためではなく、女性を健康に幸せにするための“生理現象”です。



生理のおかげで、女性は男性よりも長生きできるのです。
毎月の出血は、最高の<血液浄化>になっているからです。

昔、難病を治す際に用いられた技術が“瀉血（しゃけつ）”。治らない病気の原因は血液（汚血）にあるとして、人為的に出血させていました。体内の古い血液が新生されると病気が劇的に治る。古の故人はそれを知っていました。

男がマネできない、男には用意されていない、女性だけにプレゼントされた自然宇宙からのギフト。それが<生理>なのです！
高いお金を出して買わなくてもいい、自然に備わった<血液浄化システム>。

それが生理の本質だというのに・・・（；▽；）
<月経血＝汚物><生理用品＝汚物処理用品>といった今の常識を、何とか変えていきたいという思いから、りぼんさんの布なぶきんを薬局で取り扱う運びとなりました！＼(^o^)



詳細は紙面の関係で割愛いたしますが、市販されている生理用品の多くは高分子ポリマーの呼び名どおり、自然界に存在しない合成繊維です。それは確かにお手ごろで、多い日も安心かもしれませんが・・・(^-^);

神聖なる子宮は、冷えています。違和感を覚えています。

生理の際は、<子宮の気持ち>を忘れないでほしい。
<出血の受け止め方>次第で、子宮の健康度は変わる、そう認識ください。

「もはや生理のない私には関係ないわ」。閉経後の女性の皆さん、そんな悲しいこと言わないでください。若い時に生理で血液浄化したから、今、ご主人よりお元気でしょ？長生きしているでしょ？😊
お孫さんや縁ある女性たちに、この内容を伝えてほしいと願っています。
後世の子孫の健康と繁栄のために・・・